

育苗ハウス内の急激な温度上昇に注意！

きめ細かな温度管理で健苗を育てましょう！

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト本部

【気象の状況】

気象庁の2週間気温予報(4月22日発表)では、平年より気温の高い又はかなり高い日が4月28日頃まで続き、その後は、平年並みの気温となる見込みです。

◎当面の技術対策

きめ細かな育苗管理を行って、充実した苗を作り、移植後の生育量を確保することが重要です。今後も気温の高い日が続きます。育苗ハウスを高温で管理してしまうと軟弱徒長苗や老化苗となってしまう、移植後の活着が遅れ、生育量が不足し、収量と品質・食味の低下につながります。

(1) 育苗ハウス内の温度変化に注意！

- 無加温出芽では、出芽が揃ったら被覆資材を除去します。但し、出芽長を伸ばすほど丈の長い苗となるため、伸ばし過ぎに注意しましょう。
- 朝の気温が低くても、日中、晴れると育苗ハウス内の温度は急激に高まります。高温による苗ヤケや苗の伸びすぎに、特に注意が必要です。ハウスの換気などで温度をこまめに管理して、茎が太い充実した苗を作りましょう。
- 緑化期までは遮光資材などを利用しますが、硬化期以降は、光を十分に当てながら、適切な温度管理と水管理に努め、伸びすぎに注意しましょう。

生育ステージごとの温度管理の目安

生育ステージ		日中の温度	夜間の温度
出芽期	加温	30℃～32℃	
	無加温	30℃～32℃	10℃以上
緑化期		25℃～30℃	10℃以上
硬化期		20℃～25℃	8℃以上

(2) 根張りを良くする水管理

かん水は床土の乾き具合や苗の水滴の付き具合を見て判断し、必要な場合は、午前中の早い時間にたっぷりに行いましょう。なお、夕方や夜間のかん水は、床土の温度を下げ、根張りが悪くなるので避けましょう。

(3) 田植えは天気の良い日に

田植えは、天気予報を確認し、風が弱く温暖な日を選んで適期に行いましょう。低温や強風の日の田植えは、活着や初期生育が劣るので避けましょう。

STOP!農作業事故 農作業事故防止運動春季強化期間(4/10～6/10)